水素ガス注射　消耗品リスト

当会代表理事 辻直樹医師が、実際に水素ガス注射に使用している消耗品です。
当会では医療用品の販売ができませんので、消耗品は医療機関様にてご準備ください。

	消耗品名	製造会社	注文方法
1	**フィルター** Millex-FG 25 ㎜ PTFE 0.22um Sterile 50/pk 50PK ﾒﾙｸ SLFGJ25LS	株式会社池田理化	**メール注文（指定注文用紙を添付送信）** ※メーカー在庫により納品までお時間を要する場合がございますので、早めにご手配ください。
2	**テルモ　テルモシリンジ　ロックタイプ（LT）**	テルモ株式会社	**代理店や医療用品オンラインショップ経由でご注文ください。**
3	**テルモ　テルフュージョン三方活栓（PP）** R 型ロック付　TS-TR2K	テルモ株式会社	
4	**スカーレットニードル**	栃木精工株式会社	

フィルター注文書

FAX送信先：03-5256-1818

メール送信先：takako.mitamura@ikedarika.co.jp

注文日：　　年　　月　　日

株式会社池田理化
営業部　三田村 行
TEL：03-5256-1811

施設名

住所

TEL　　FAX
メールアドレス(請求書送付先)

担当名

下記の通り注文致します。

※ 右記メールアドレス宛に請求書送付
※ 金額前振込（お振込み確認後の発送）
※ 送料別途請求

品名	注文数	単位	単価	金額
Millex-FG 25㎜ PTFE 0.22um Sterile		箱	30,500	
50個入/箱　ﾒﾙｸ SLFGJ25LS				
以下余白				
			小計	￥
			消費税(10%)	￥
			合計金額	￥

備考欄
※ 一般社団法人　臨床水素ミトコンドリア治療研究会 紹介

以上、よろしくお願いいたします。

*2017年8月改訂（第2版　新記載要領に基づく改訂、他）
2007年2月作成

医療機器届出番号：13B1X00101000022

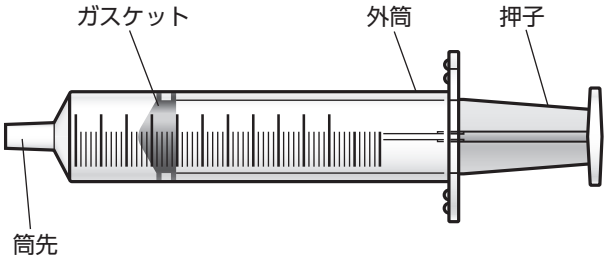
機械器具　48　注射筒
一般医療機器　　汎用注射筒　（JMDNコード：13929001）

テルモシリンジ

再使用禁止

* **【禁忌・禁止】**
＜使用方法＞
* 再使用禁止、再滅菌禁止

***【形状・構造及び原理等】**
＜構造図（代表図）＞



スリップタイプ（ST）　ロックタイプ（LT）　横口スリップタイプ（EST）

* 血液・体液に接触する部分の原材料一覧

部品名	原材料
ガスケット	エラストマー
外筒	ポリプロピレン
潤滑剤	シリコーン油

＜原理＞
* 本品は、主として注射、又は採血等に使用するための注射筒であり、JIS T 3210滅菌済み注射筒に適合するものである。

【使用目的又は効果】
＜使用目的＞
本品は、主として注射、又は採血等に使用するための器具である。

【使用方法等】
1. 本品を包装から取り出す。
2. 注射又は採血に使用する場合は、注射針等と確実に接続し、使用する。
3. 穿刺部位を消毒する。
4. 穿刺部位に穿刺し、注射又は採血等を行う。
5. 針を抜去後、必要な場合は、止血する。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞
1. あらかじめ他の医療機器等との接続部に緩みがないことを確認してから使用すること。
2. シリンジポンプを使用する場合は、以下の事項を順守すること。
   (1) シリンジポンプのメーカーに適用の可否を確認すること。
   (2) シリンジポンプの電子添文及び取扱説明書を確認後、使用すること。
   (3) 輸液開始時には、輸液状態（シリンジの動作状態、薬液の減り具合）や穿刺部位を必ず確認すること。また、輸液中にも、巡回時等定期的に同様の確認をすること。
   (4) 微量注入で使用する場合は、輸液ラインの閉塞の発生がないこと等、輸液状態に特に注意すること。［設定流量が低くなるにつれ、閉塞発生から検出までの時間が長くなるため、長時間輸液が中断する場合がある。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じる可能性がある。］
   (5) 薬液は室温になじませてから使用すること。［冷えたまま使用するとシリンジの押子の摺動抵抗が増加し、閉塞警報が多発する原因となる。］
3. 本品に衝撃を与えないこと。［破損する可能性がある。］
4. 他の医療機器と接続する場合は、以下の事項を順守すること。
   (1) 接続する際は、過度な締め付けをしないこと。［筒先に破損、空回りが生じ、液漏れ、空気の混入を引き起こす可能性がある。］
   (2) 接続部分に薬液又は血液を付着させないこと。［接続部の緩み、空回り等が生じ、液漏れ、空気の混入を引き起こす可能性がある。］
   (3) メスコネクターと接続する際は、横方向の力を加えないこと。［筒先に曲がりや破損が生じ、液漏れ、空気の混入を引き起こす可能性がある。］

【使用上の注意】
＜重要な基本的注意＞
1. 使用中は本品の破損、接続部の緩み及び薬液漏れ等について、定期的に確認すること。
2. 医薬品の種類によっては、本品の外筒の内側に塗布されているシリコーン油が析出することがあるので注意すること。シリコーン油が析出した場合は、医薬品の電子添文を確認し、適切な処置をとること。
3. ガスケット部に注射針等で傷をつけないこと。［破損が生じ、液漏れ、空気の混入を引き起こす可能性がある。］
4. 外筒印刷部の目盛を越えて押子を引かないこと。［押子が外筒から抜けて液漏れが生じる可能性がある。］
5. 押子はまっすぐに引くこと。［斜めに引くと、ガスケットと外筒との密着性が悪くなり、液漏れ、空気の混入又はガスケットが外れる可能性がある。］
6. 本品を鉗子等でつまんで傷をつけないこと。［破損が生じ、液漏れ、空気の混入を引き起こす可能性がある。］
7. 外筒部を強く握るなど、圧迫するような力を加えないこと。［圧迫すると、ガスケットと外筒との密着性が悪くなり、液漏れ、空気の混入が生じる可能性がある。］
8. 外筒印刷部の目盛をこすらないこと。［目盛が消える可能性がある。］
9. 造影剤等の高圧注入には使用しないこと。［液漏れ又は破損する可能性がある。］
10. 外筒印刷部に薬液がついた状態で放置しないこと。［印刷が剥離する可能性がある。］
11. 注射針等を接続し使用する場合は、針刺しに注意し慎重に取り扱うこと。
12. ヘパリンロック等の操作を行う場合は、血液をカテーテル内に逆流させないようにシリンジの操作に注意すること。［ヘパリン等を注入後、押子から手を離すなど押す力を緩めると、静脈圧やシ

リンジの構造上の特性により押子が押し戻され、血液がカテーテル内に逆流し、ヘパリン量と濃度、及びロック時間等の条件によっては凝血する可能性がある。特に押子を最後まで押し切った後に押子を押す力を緩めると、逆流量が大きくなる。]

13. 押子を繰り返し前後させるなどの操作を行う際は、押子を汚染させないよう、清潔な手袋を着用するなど、十分注意して操作すること。［押子を経由して外筒内が細菌汚染する可能性がある。］
14. 冷えた薬液を吸引し使用する場合は、取り扱いに注意すること。［低温下では耐衝撃強度が低下し、破損する可能性がある。］

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

水ぬれに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

＜有効期間＞

使用期限は外箱に記載（自己認証による）

***【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**

製造販売業者：**テルモ株式会社**

*電 話 番 号：0120-12-8195 テルモ・コールセンター

**2022年10月改訂（第３版）
*2020年12月改訂

医療機器認証番号：15600BZZ01333000

機械器具　51　医療用嘴管及び体液誘導管
管理医療機器　　輸液ポンプ用ストップコック　（JMDNコード：35375022）
（汎用血液流路用ストップコック（JMDNコード：35375012））
（輸血・カテーテル用ストップコック（JMDNコード：35375042））

テルフュージョン三方活栓

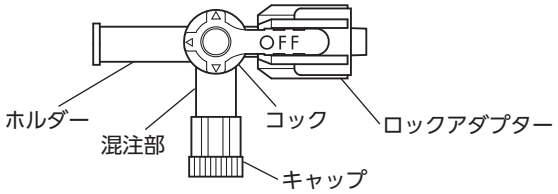
（ＰＰ）

再使用禁止

【禁忌・禁止】
＜使用方法＞
再使用禁止、再滅菌禁止

*【形状・構造及び原理等】

＜構造図（代表図）＞



* 血液・体液に接触する部分の原材料一覧

部品名	原材料
ホルダー	ポリプロピレン
コック	ポリカーボネート
潤滑剤	シリコーン油

＜原理＞
本品は、輸液セット等に接続し、医薬品等を投与するための器具である。また、採血にも使用できるものであり、JIS T 3320滅菌済み活栓に適合するものである。

【使用目的又は効果】

＜使用目的＞
輸液、輸血、採血、採液及び150キロパスカル以下の圧力で使用する造影剤投与などを行うための流路に接続し、液体の流向を制御するために使用すること。

**【使用方法等】

コック上の「OFF」の位置が閉塞した流路となる。使用目的に合わせコック位置を設定すること。なおコック位置を切り替えることにより、流路も切り替わる。

医薬品等を投与する場合
1. 汚染に十分注意し、本品を包装から取り出す。
2. 必要に応じて、輸液セット等に接続する。
3. 混注部を消毒剤で消毒する。
4. 混注部側が開いた状態であることを確認する。
5. オスルアーテーパーを有するシリンジ、輸液セット等のオスコネクターを、混注部に確実に奥まで差し込む。
   ワンショット投与する場合
   薬液の上流（輸液剤容器側）への逆流を防ぐため、コックを操作して上流側を閉じてから投与する。投与終了後は、コックを元の状態に戻す。
   輸液ポンプ使用中にワンショット投与する場合
   輸液ポンプを一時停止し、投与終了後、再開する。
6. ロックタイプのものは、確実にロックして接続し、医薬品等を投与する。ロックタイプでないものは、本品とシリンジ等を確実に手で固定して外れないようにし、医薬品等を投与する。
7. 投与終了後は、本品を確実に手で固定し、シリンジ、輸液セット等のオスコネクターを外す。

採血する場合
1. 汚染に十分注意し、本品を包装から取り出す。
2. 静脈針等に直接接続する、又は採血用途の延長チューブを介して静脈針等に接続する。
3. 混注部を消毒剤で消毒する。
4. 混注部側が開いた状態であることを確認する。
5. オスルアーテーパーを有する採血器具（シリンジ等）を、混注部に確実に奥まで差し込み、採血する。
6. 採血終了後は、血液凝固を防止するため、生理食塩液等でフラッシング又はヘパリンロックを行う。

薬液の混注後、続けて採血する場合
1. 混注部を消毒剤で消毒する。
2. オスルアーテーパーを有する採血器具（シリンジ等）を、混注部に確実に奥まで差し込み、下流側に残存している薬液を吸引する。
3. 下流側に血液が満たされてきたら、新たなオスルアーテーパーを有する採血器具（シリンジ等）を、混注部に確実に奥まで差し込み、採血する。
4. 採血終了後は血液凝固を防止するため、生理食塩液等でフラッシング又はヘパリンロックを行う。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞
1. あらかじめ接続部に緩みがないことを確認してから使用すること。
2. 本品が身体の下等に挟まれないように注意すること。［部品の破損等が生じる可能性がある。］
3. 本品に衝撃を与えないこと。［破損する可能性がある。］
4. 薬液を混注する場合は、空気の混入に注意すること。
5. 本品の付属品である混注キャップを装着し、針を用いて混注する場合は、針先がコック部に接触しないようにすること。［コックが破損して、薬液が漏れる可能性がある。］
6. Ｌ型タイプを使用する場合は、コックを180°以上回転させないこと。［コックが浮き上がり、薬液が漏れる可能性がある。］

**7. 輸液を一時的に中断するなど、本品のメスコネクターから輸液セット、延長チューブ等を取り外す際は、本品の付属品であるキャップ、混注キャップ、又は閉鎖式コネクター(シュアプラグAD(医療機器認証番号:229AABZX00004000)等)を接続すること。［メス側が開放状態となり、薬液漏れや空気混入、汚染の可能性がある。］
8. 混注する場合は、混注する薬液の特性を考慮し、混注前後に生理食塩液等でフラッシングを行うなど、適切な処置を講ずること。［本品は輸液剤の流路から横に分岐した構造となっているため、薬液を混注した場合、薬液の一部が直ちに流れずに本品内部に残る可能性がある。］
9. コネクターを使用する場合は、以下の事項を順守すること。

(1) 他の医療機器と接続する場合は、過度な締め付けをしないこと。［コネクターが外れなくなる、又はコネクターが破損する可能性がある。］
(2) テーパー部分に薬液を付着させないこと。［接続部の緩み等が生じる可能性がある。］

10. 本品を極端な低温環境下（冷蔵庫内と同等以下の温度）で使用する場合は、取扱いに注意すること。［本品のホルダーはポリプロピレンを使用しており、低温下では耐衝撃強度が低下し、破損する可能性がある。］

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

1. プライミング後は直ちに薬液を投与すること。［薬液が汚染される可能性、又はアルカリ性の強い薬剤等においては析出物が生じる可能性がある。］
2. 使用中は本品の破損、接続部の緩み及び薬液漏れ等について、定期的に確認すること。
3. コックに対し、引き抜く方向に過度な負荷を加えないこと。［コックが外れ、液漏れが発生する可能性がある。］
4. 血管造影剤等の高圧注入には使用しないこと。［液漏れ又は破損する可能性がある。］
5. ロックアダプターとポリ塩化ビニル製のメスコネクターを接続する場合は注意すること。［外れなくなる可能性がある。］

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

水ぬれに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

＜有効期間＞

使用期限は外箱に記載（自己認証による）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：**テルモ株式会社**
電 話 番 号：0120-12-8195 テルモ・コールセンター

＊ 2017 年 11 月（第 2 版 新記載要領に基づく改訂）
2012 年 2 月（第 1 版）

認証番号：224AGBZX00011000

機械器具 47 注射針及び穿刺針
管理医療機器 単回使用皮下注射用針（12745002）

スカーレット ニードル

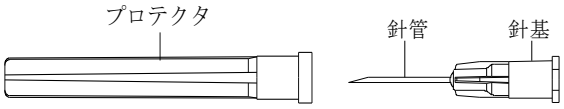
再使用禁止

【禁忌・禁止】
- 再使用禁止
- 針管を折り曲げての使用禁止

【形状・構造及び原理等】

1. 構成

主として針管と針基からなり，針管の保護及び誤刺の防止に，ケース・キャップ，プロテクタ又はプロテクタチューブを装着する。



2. 寸法

針管の公称外径	針基の色	針管の公称長さ
＊ 0.18 ㎜	オレンジ	4 ㎜～10 ㎜
0.20 ㎜	ナチュラル	
0.26 ㎜	ディープ グリーン	4 ㎜～38 ㎜
0.28 ㎜	ピンク	
0.30 ㎜	イエロー	4 ㎜～50 ㎜
0.33 ㎜	レッド	
0.36 ㎜	ブルー-グリーン	
0.40 ㎜	メディアム グレー	
0.45 ㎜	ブラウン	
0.50 ㎜	オレンジ	
0.55 ㎜	メディアム パープル	12 ㎜～150 ㎜
0.60 ㎜	ディープ ブルー	
0.65 ㎜	ナチュラル	
0.70 ㎜	ブラック	
0.80 ㎜	ディープ グリーン	
0.90 ㎜	イエロー	
1.10 ㎜	クリーム	
1.20 ㎜	ピンク	
1.40 ㎜	レッド-バイオレット	
1.60 ㎜	ホワイト	
1.80 ㎜	ブルー-グレー	
2.00 ㎜	ペール-グリーン	

3. 原材料

針管： ステンレス鋼 JIS G 4305 SUS 304
針基： ポリプロピレン（PP）又はポリカーボネート（PC）

【使用目的又は効果】

注射筒等を用いて，そのまま皮下や血管又は回路に医薬品の投与に用いる一回限り使用の注射針である。

【使用方法等】

1. 滅菌包装に破損・汚れ等が無いことを確認後開封し製品を取り出す。
2. プロテクタを付けたまま針基を注射筒などと確実に取り付ける。
3. 穿刺部位を消毒する。
4. 針先を傷つけないようにプロテクタをまっすぐ引いて取り外す。
5. 刃先から薬液の注出ができることを確認後注入する。
6. 針を抜去後，必要な場合は止血を行う。

〈使用方法関連する使用上の注意〉
- プロテクタをまっすぐ引いて取り外すこと。〔外すとき刃先に触れると針先が変形し，切れ味が悪くなる可能性がある。〕
- 針基のルアー接続部は国際規格 ISO 594-1 に準拠しているが，接続相手が同様の規格に準拠している場合でも，絞め方や接続後の取扱い等により，接続が緩む場合が想定される。確実にしっかりと接続し，漏れ等の異常がないことを必ず確認すること。
- 針基に過剰な負荷をかけないこと。また注射筒などに嵌合する場合は，プロテクタで針基に過剰な回転負荷をかけないこと。〔針基が外れなくなる又は針基が破損し，薬液等が漏れる可能性がある。〕

【使用上の注意】

〈重要な基本的注意〉
- 針基にポリカーボネート(PC)を用いる注射針を使用する場合，且つ脂肪乳剤等をはじめ油性成分，界面活性剤又はエタノール等の溶解補助剤を含む薬液を投与する場合及びエタノールを含む消毒剤を使用する場合，また，注射筒等と過度な締め付けにより，針基のひび割れが発生する可能性がある。PC 材針基の場合は，一次包装表示に明記してある。
- 本品は滅菌済みのため，包装を開封したら直ちに使用すること。
- 針管は曲げて使用したり，強い力をかけたりしないこと。〔針管が折れる危険性がある。〕
- リキャップする必要がある場合は，針刺しを防止するため，保護具等を使用するか，プロテクタを手で持たずに台等に置いて，プロテクタを真っ直ぐに被せること。〔傾けると針がプロテクタを突き抜ける可能性がある。〕
- 使用中あるいは使用後に手指等への誤刺のあった場合には，施設のプロトコールに従い，直ちに適切な処置を取ること。

〈その他の注意〉
- 本品の使用により発疹，皮膚炎などの過敏症状が表れた患者には，使用を中止し，医師の診断を受けさせること。

【保管方法及び有効期間等】

〈保管方法〉

水濡れに注意し，直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

〈使用期限〉

使用期限は箱に記載（自己認証による）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元及び製造元
栃木精工株式会社
〒328-0012 栃木県栃木市平柳町 2 丁目 1 番 5 号
TEL：0282-27-1133